

# 令和4(2022)年度 港湾振興・港湾基礎調査合併費の内 三河港利用促進戦略検討調査業務 実施概要 (愛知県三河港務所 委託事業)

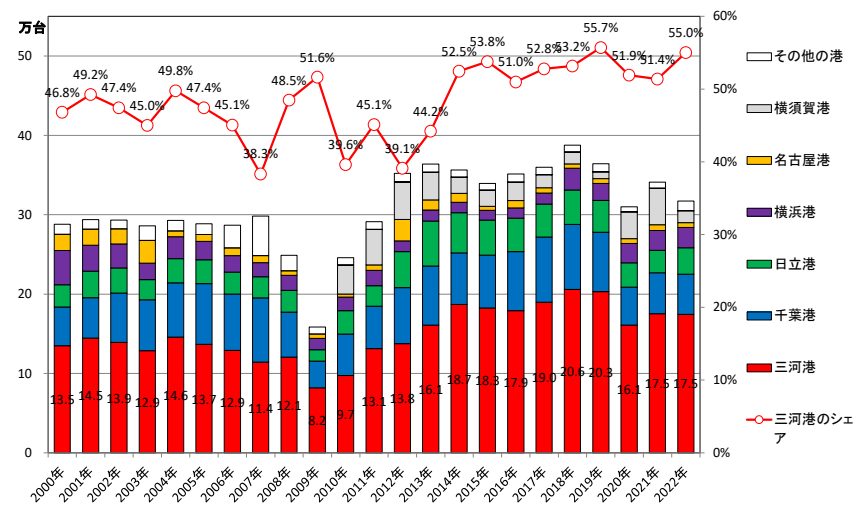
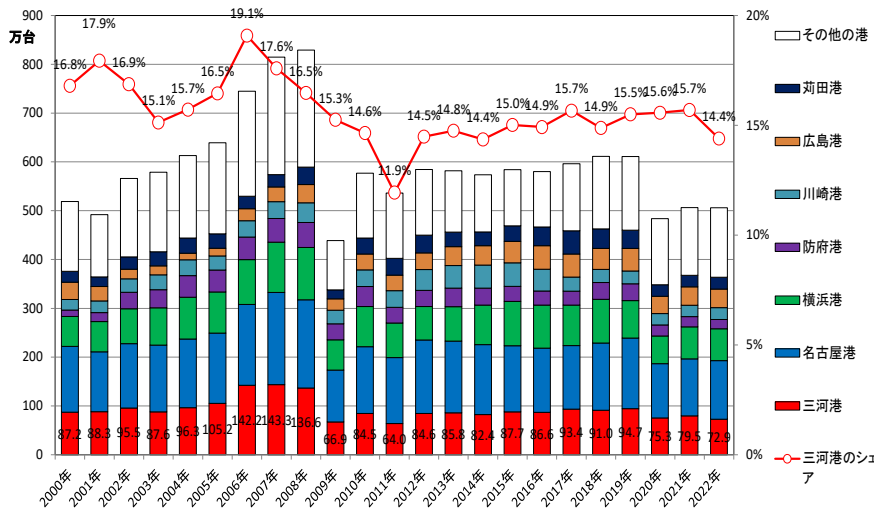
## 1. 業務の目的

三河港は地理的優位性を背景に多くの企業が進出し、完成自動車を中心として活発な生産・物流が展開されている。昨今、グローバルサプライチェーンの変動、脱炭素社会への移行、デジタル化の進展など、国内外の港湾を取り巻く環境が大きく変化している。三河港が地域産業の持続的発展に寄与する港湾であるためには、港湾物流や企業活動の適切な状況把握やそれに応じた施策の検討が三河港の振興業務として必須である。そこで本調査は、以下4つの視点に基づいて三河港の利用促進策を検討した。

- ①内航フィーダー(国際フィーダー)航路に関する動向分析
- ②物流施設の立地・誘致検討に関する調査
- ③完成自動車の輸出入等の取扱状況に関する動向分析
- ④三河港のカーボンニュートラルポート形成計画策定に向けた情報収集

以上より、三河港の取扱貨物の拡大と利用促進に向けた取り組みの方向性を検討するための基礎資料を取りまとめた。

## 2. 調査結果(一部抜粋)



**■輸出港湾の取扱状況**  
2022年の日本から海外への完成自動車輸出台数は、コロナウイルス感染症拡大の影響で減少した2020年の483万台から2021年と2022年と506万台を維持している。コロナ禍前までは回復していない。港湾別の輸出台数を見ると、最も輸出台数が多いのは名古屋港の119万台(前年116万台、3%増)、次いで、三河港の72万台(同79万台、8%減)、横浜港の65万台(同65万台、0.1%微減)である。三河港の輸出シェアは14.4%である。それ以外の港湾では、マツダの輸出拠点である広島港が38万台(同37万台、1%増)、日産の輸出拠点である荻田港が24万台(同23万台、2%増)となった。

**■輸入港湾の取扱状況**  
2022年の海外から日本への完成自動車輸入台数は31.7万台で、2020年の31.0万台より0.7万多いが2021年と比較すると2.3万台(7%)減少した。港湾別の輸入台数を見ると、三河港が17.4万台(前年17.5万台、0.4%減)で30年連続全国1位となった。三河港の輸入台数の全国シェアは前年より伸び55.0%となった。三河港に次いで、千葉港が5.0万台(同5.1万台、2%減)、日立港が3.3万台(同2.8万台、18%増)であった。これら以外には横浜港は2.5万台(同2.5万台、3%増)、横須賀港は1.4万台(同4.6万台、68%減)となった。横須賀港の大幅な減少の背景には日産のタイ現地生産の逆輸入減少が影響している。